

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-23

学校名・団体名	長岡市立大島小学校
HPアドレス	<a href="http://www.kome100.ne.jp/oojima-es/">http://www.kome100.ne.jp/oojima-es/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子ども同士の関わりを生み出すための ICT 活用の あり方
<b>〈活動・研究の意義, 目的〉</b>  今年度、大島小学校は Hanoi 市の To Hoang 中学校が参加する International School Award(British Council in Vietnam 主催)の「伝統的な踊り」部門のパートナーとなり、6年生が Skype やビデオレターによる交流を行ってきた。 本実践では、To Hoang 中学校との交流を外国語活動の単元として位置付け、ICT 機器を活用して子どもたち同士が関わりながら発表時の課題に気付いたり、外国語に親しんだりする姿を目指した。	

## 1 活動時期および内容

### ○7月…Vietnamの学校と交流しよう(総合的な学習)

- ・ガイダンス…To Hoang 中学校の紹介
- ・実践発表「新潟県教育センター」

※昨年度「ICT活用指導力向上研修プログラムの開発」に参加して得られた成果を発表した。

### ○8月…長岡まつりに参加しよう(学年行事)

### ○9月…Vietnamについて調べよう

- ・日本と世界のつながり(社会科)
- ・ベトナムってこんな国(総合的な学習)

※外部講師(ベトナム人)による Vietnam の文化紹介

### ○10月…長岡の歴史を学ぼう(総合的な学習)

- ・To Hoang 中学校「伝統的な踊り」部門に参加している生徒と Skype を使って交流(総合的な学習)
- ・長岡の歴史や伝統について調べる(総合的な学習)

・「長岡まつり」や「長岡甚句」についてわかったことや長岡まつり前夜祭で長岡甚句を踊った様子を、ビデオレターにまとめて To Hoang 中学校へ紹介する(総合的な学習)

- ・実践発表「全日本教育工学研究協議会全国大会 富山大会」

※ここまで実践して得られたことを発表した。

### ○11月…To Hoang 中学校に大島小学校のよいところを紹介しよう(外国語活動)

※ICT機器を活用した授業として公開する。

- ・指導者…上越教育大学 中野博幸 特任准教授
- ・単元について

Hi, friends!2 Lesson5 を「To Hoang 中学校へ大島小学校のいいところを紹介しよう」とし、「歓迎の気持ちを表す表現」(Welcome to~, Please come to~)を中心に、これまで学んできた「~ができるよと伝える表現」(You can~)や「基本的な動作を表す表現」(see, eat, play, go, enjoy, learn)を組み合わせながら、班毎に決めたテーマ(「運動会」「児童会祭り」「授業」など)に沿って大島小学校のよさを英語で伝える活動を行った。練習の際は、デジタルテレビに自分たちの姿を映しながらデジタルカメラで発表の様子を動画で記録し、班での話し合いに生かした。単元の最後に、学級での発表会を設定し、この発表を録画して To Hoang 中学校へ送るビデオレターとした。

## 2 成果

公開した授業では、本時の課題を「発表の仕方を工夫して完成度を上げ、大島小のよさを伝えよう」とした。

「工夫」や「完成度」という言葉はほとんどの児童が理解しているが、そのイメージは個々に異なっていると考え、事前に作成したお手本のビデオを見ながらよい点を挙げていく活動を通して、「完成度」を上げるために「工夫」する点をはっきりさせた。子どもたちが見つけたよい点の中から、班毎に目標を選ばせた。ここではA児の様子を述べていく。

前時の振り返りで、A児は自分の課題として「姿勢」と「笑顔」を挙げていた。記録した動画を確認すると、確かにA児の表情は暗かった。同じ班の児童の振り返りには「声の大きさ」や「発音」等の記述が見られたが、話し合いの結果、A児が課題にしていた「笑顔」がこの班の目標になった。この班は何度もデジタルテレビをモニターにしながらデジタルカメラで発表を録画し、撮影後は動画を見ながら自分たちの発表について振り返りを行っていた。本時の最後に録画した動画には、笑顔で映るA児を確認することができたが、A児の振り返りには「笑顔だったけど、まだできると思った」と書かれていた。笑顔という目標を達成し、今度は身振りを工夫することで、より伝わる発表になるとA児は考えていた。他の児童の振り返りにも「自分では(笑顔で)出来たと思っても動画を見ると真顔で驚いた」「今まであまり意識していなかったが、班のめあてを立てて練習したので、みんなが笑顔になった」等と述べられており、共通のめあてを立てて ICT 機器を活用しながら練習したことで、話し合いから様々な気付きが生まれ、新たな課題を見つけていた。

ICT 機器を活用で、自分自身を可視化することができ、それが様々な気付きにつながるということがわかった。今回は外国語活動での実践だったが、国語の音読や音楽での歌や楽器演奏など、様々な場面への応用が考えられる。

## 3 課題

ICT 機器は便利だが、利活用に向けて使える環境を整えることが必要になる。最近セキュリティ意識の高まりから、コンピュータ使用時の自由度がだんだんと小さくなってきた。本実践では、コンピュータ室にモニター用のデジタルテレビと三脚を4台用意し、班毎にデジタルカメラを用意した。授業ではカメラに録画した映像をすぐにコンピュータ上で再生させたが、これだけのことで事前に設定しておかないと映像を見ることができない。2020年「教育の情報化」に向けて、タブレット端末などの新しい ICT 機器が次々に学校に導入されると思われるが、使いやすい環境作りとセキュリティ対策の両立をどのように図っていくかは、自校の環境に合わせて使いながら考えていく課題になるだろう。